

たからざか



令和5年
7月発行

No.78

良質で高度な医療を提供し
住民に愛される病院を目指します。

大牟田市宝坂町2丁目19番地1
TEL 0944-53-1061

HP <https://www.ghp.omuta.fukuoka.jp/>



中央放射線部より

令和4年2月に放射線治療装置（リニアック装置）VersaHDを導入しましたのでご紹介します。

放射線治療とは

放射線治療は、手術、薬物療法と並びがんの3大治療の一つとされています。局所療法であり、全身麻酔は不要で、切除することなく正常組織の機能や形態を温存できることが特徴です。

新装置の特徴

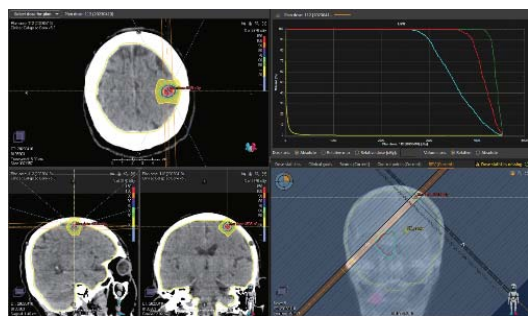
高い安全性と正確性を兼ね備えた高精度放射線治療システムです。

幅広いがんへの治療対応はもちろん、複雑ながんの治療にも対応可能です。

新装置では、複数の位置合わせができるシステムを装備しており、治療部位の位置合わせにおける精度が向上しました。さらに1回あたりの治療時間が短縮され、患者さんの負担を軽減することができるようになりました。



【エレクタ社 VersaHD】



【脳定位照射】



【肺定位照射】

高精度放射線治療への取り組み

これまでの放射線治療だけではなく、多方向から病変に集中的に放射線を照射することで、高い治療効果を期待しつつ、正常組織への副作用を軽減することができる高精度放射線治療（定位放射線治療）を行うことができるようになりました。

患者さんに優しく、さらに精度の高い放射線治療ができるようになりましたので、がん治療の選択肢として、地域のニーズにさらに対応できるようになりました。

放射線治療の適応については、まず主治医にご相談いただきますようお願いいたします。

手術支援ロボット「ダビンチ」の導入について

外科 部長 むら かみ 村上 なお たか 直孝

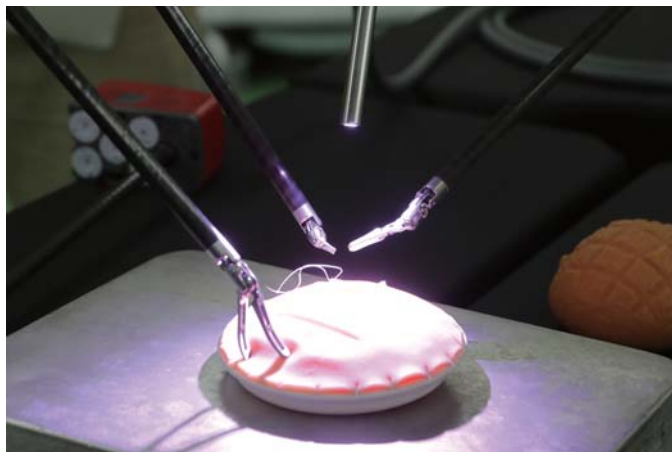
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本内視鏡外科学会ロボットプロクター
日本ロボット外科学会専門医



◆ロボット手術を開始しました

当院は手術支援ロボット「ダビンチ」を導入し、令和5年5月よりロボット支援腹腔鏡下手術を開始しました。有明医療圏（福岡県）では初の導入となります。

現在まで当院では、患者さんにダメージの少ない術式として積極的に腹腔鏡手術を行ってきました。腹腔鏡手術とは、小さな傷からお腹の中に細長いカメラと、細長い鉗子（はさみやピンセットなど）を入れて、お腹の中で行う手術です。



〈デモンストレーションの様子①〉

これまでの腹腔鏡手術にロボットの機能を組み合わせて発展させた手術術式です。ロボットが勝手に手術してくれるわけではありません。内視鏡カメラと3本のアームをお腹に入れて、医師がTVモニターを見ながら手や指を動かすと、その動きがコンピュータを通してロボットに伝えられ、先端の鉗子が連動して同じように動きます。

「ダビンチ」を導入することにより、今までは不可能であった角度からの視野の確保や鉗子の自在で細密な動きが可能になり、患者さんに大きなプラス作用が期待できます。



〈デモンストレーションの様子②〉

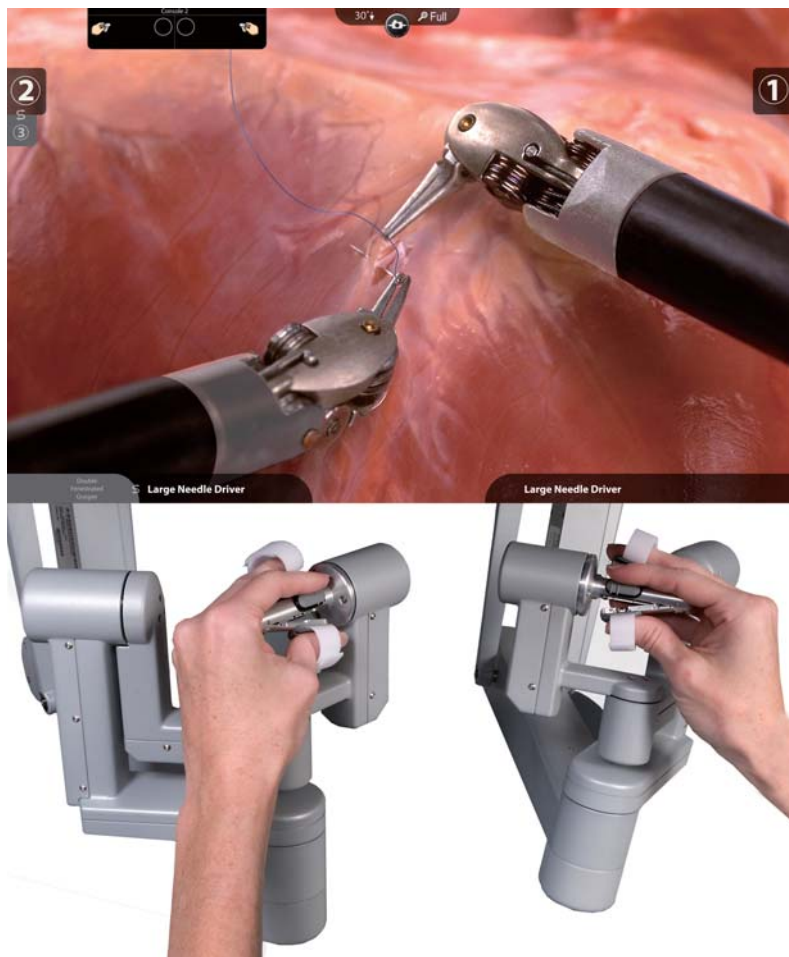
◆患者さんに優しい手術

「ダビンチ」による手術は、腹腔鏡下手術と同様に、傷口が小さい低侵襲の手術です。この術式は開腹手術と比べて出血量が少なく、術後の痛みが軽減されるため回復が早く、入院期間も短縮することができます。また、手術臓器によっては機能温存の向上や合併症リスクの回避など、さまざまなメリットが見込まれます。

◆「ダビンチ」の特徴

全世界で約 7500 台が導入されており、手術支援ロボットのシェアの大部分を占めています。

- ①ハイビジョンで立体的に映し出される拡大画面をみながら操作できます。またカメラは人間ではなくロボットが持っているため手ブレがない安定した視野が得られます。
- ②ロボットの手先には関節が複数ついており、上下左右に自在に動かすことが可能です。組織をつまんだり、切ったり、針で縫い合わせたりなどが、なめらかに行うことができます。
- ③人間は誰しも多少の手の震えがあります。「ダビンチ」にはこの震えを感知してロボットの指先に伝えない手ブレ補正機能（フィルター機能）がついています。この機能により細い血管の縫合などの操作も正確に行うことができます。
- ④手先の動きをロボットに伝える比率を変えることができます。縮小率は5対1や3対1など、状況に合わせて変えることが可能です。



◆施設の基準と適応となる手術

ロボット手術はどの施設でも行える手術ではありません。安全性を担保するために、その病気の手術に十分慣れた施設であることや、腹腔鏡手術とロボット手術を指導できる技術を持った医師が勤務しているなど多くの条件が必要です。

当院ではまず、外科での大腸手術と泌尿器科での前立腺手術より開始いたします。順次、他の術式も適応していく予定ですので、ホームページを確認下さい。



7月28日は

世界肝炎デーです!!

「肝炎ウイルス検査を受けて、早期発見・早期治療」

世界保健機関(WHO)は、世界的なウイルス性肝炎のまん延防止や、患者・感染者に対する差別・偏見の解消、感染予防の推進を図ることを目的として、7月28日を世界肝炎デーと定めています。

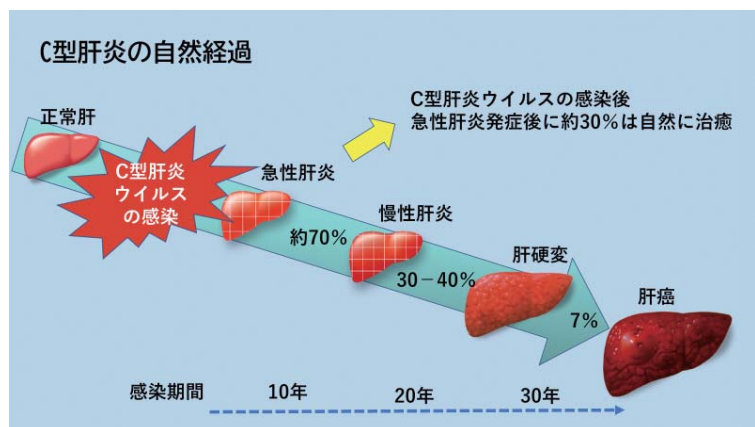


肝炎ってどんな病気？

肝炎は、肝臓に炎症が起きて、肝臓の細胞が破壊される病気です。

日本では、ウイルス性肝炎が大半を占め、特にB型及びC型肝炎の感染者は250万人を超えて、国内最大の感染症とも言われています。

福岡県は全国と比べて、肝がんによる死亡率が高い地域です。



C型肝炎ウイルスに感染した方の約70%が慢性肝炎になるといわれています。

C型慢性肝炎の30~40%の方は、約20年で肝硬変になるといわれています。

肝硬変では年に7%の方に肝がんが発生するといわれています。



肝炎になっても痛くないの？

肝臓は沈黙の臓器とも言われています。知らない間に病状が進行してしまい、肝がんなど命に関わる病気になってしまうことがあります。



肝炎ウイルス検査、受けないとダメ？

一生に一度は検査を受けましょう。もし肝炎ウイルスに感染していても適切な治療を受けることで、深刻な病状に進行するのを防ぐことができます。

福岡県では「肝炎ウイルス無料検査」を実施中です。

また、B型・C型患者の皆様には定期検査費用の助成制度もありますので、詳しくは福岡県医療介護部がん感染症疾病対策課(092-643-3576)までお問合せください。

大牟田市立病院においても、肝炎ウイルス検査を実施しています。

当院は、福岡県肝疾患専門医療機関に登録されており、鳥村拓司院長をはじめ、常勤の日本肝臓学会専門医が6名在籍しています。